

2023年度日系社会研修員受入事業

コース一覧表（上半期分）

No.	研修科目 和文	人数 受入 上	上下	来 日 日	終 了 日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
C2	ドローン・空間情報技術による 農地・森林評価及び野生動物生 息地の管理手法	10	上	上半期いずれかで相談 可		<p>【1】農業、森林、環境管理に必要なGIS技術、GPS技術、マイクロ波リモートセンシング技術、ドローンの活用技術を習得する。</p> <p>【2】1) GIS技術：GISソフトArcGISの基本的な操作、解析手法を習得する。 2) GPS技術：GPSによる農地計測、デジタルカメラとGPSを利用した農地管理。野生動物へ装着するGPSによる野生動物の行動解析手法を習得する。 3) リモートセンシング技術：ドローン、ErdasImagine、ENVI、SNAPなどリモートセンシングソフトを利用し、Sentinel-1、Landsat、Alosなどの人工衛星画像や空中写真などから、緑地抽出手法、収量予測手法などを習得する。 4) ドローン技術：操作方法、データ解析手法、日本におけるドローン運用法規等を習得する。</p> <p>【3】高度なGIS・ドローン技術を習得する集中講習に参加し技術の向上を図る。ドローン開発を行っている国内の研究所や民間企業等の先進地を視察し、最先端ドローン技術を学び、今後の共同研究のネットワークづくりを行うとともに、GIS、ドローンを活用した森林管理(REDD)や野生動物管理に関する講義に参加し、研究及び情報交流を図る。また、出身国（地域）の実際のGISデータ、衛星画像等を使い、ソフトの操作方法のみならず、帰国後にすぐ利用できるデータベースを構築する。なお、使用する機器及びソフトの一部は、帰国後にも利用できるよう、本学が提供する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、来日がかたない場合は全ての研修内容をオンラインでも対応が可能である。また、本研修では英語による講義も行われるため、必要最低限の日本語能力で十分である。</p>	<p>表計算ソフトの操作など、基本的なコンピュータ操作が可能なこと。リモートセンシングソフトの操作については問わない。</p> <p>学歴：不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：英語でのコミュニケーション可 備考：応募締切は5月末日コースの締切日です。</p>	<p>提案団体：酪農学園大学</p> <p>担当者名：教授 小川 健太/ 教授 森 夏節</p> <p>E-mail: tech@rakuno.ac.jp Site: https://www.rakuno.ac.jp</p>
C8	和菓子を通じた日系社会活性化	6	上	6/18	7/21	<p>【1】研修員が、和菓子に関する知識を深め、より質の高い和菓子を製造するための技術を習得し、日系社会活性化に役立つ。□</p> <p>【2】1. 研修員に、和菓子の製造に関する基礎知識が習得される。 2. 研修員に、日本文化としての和菓子に関する知識が習得される。 3. 研修員に、商品としての和菓子の基礎知識が習得される。□</p> <p>【3】1. 講義：日系社会と日系団体活動、日系社会における和菓子屋の継承 和菓子の歴史・文化・種類、材料について等 2. 視 察：和菓子屋、和菓子工場、製菓所等 3. 実 習：基礎的な和菓子の製造技術□</p>	<p>日系団体婦人部または自営にて菓子製造に携わっている者 日系団体の活動に関わっており、帰国後、習得した技術を日系社会や周辺社会のために活かす意思がある者□</p> <p>学歴：不問 経験年数：1 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：</p>	<p>提案団体：公益財団法人海外日系人協会□</p> <p>担当者名：中井扶美子</p> <p>E-mail: kenshu@jadesas.or.jp Site: https://www.jadesas.or.jp/</p>
C9	日本文化活動コーディネーター 育成（基礎）□	6	上	7/23	9/1	<p>【1】研修員が、日本文化・歴史に関する基礎知識を習得し、継承および普及のための日本文化活動を企画・運営するための知識を習得する。□</p> <p>【2】1. 研修員に、日本文化・歴史に関する基礎知識が習得される。 2. 研修員に、様々な日本文化活動事業に関する企画実施方法が習得される。 3. 研修員が、日本文化活動を通じて、日系社会および地域活性化のための活動案を作成する。□</p> <p>【3】1. 講義：日本文化・歴史の基礎知識、各国日系団体事情、各種イベント企画手法、日本文化紹介手法、日系団体の役割とあり方、ファシリテーション手法、新規事業計画作成等 2. 実習・体験：日本文化体験 3. 見学：日本文化・歴史の関連施設、文化系・教育系NPOの活動、移住関連施設 4. 発表：研修最終日□</p>	<p>日系日本語学校または日系団体の文化部担当者、青年部のリーダーなど□</p> <p>学歴：不問 経験年数：1 年齢：不問 日本語能力：不問</p> <p>英語・多言語：不問 備考：</p>	<p>提案団体：公益財団法人海外日系人協会□</p> <p>担当者名：中井扶美子</p> <p>E-mail: kenshu@jadesas.or.jp Site: https://www.jadesas.or.jp/</p>
C13	改善と5S□	10	上	6/18	7/21	<p>【1】研修員が、「改善」と「5S」の考え方を理解し、問題の解決・向上に向けた実践的なスキルと活動を展開するためのアプローチを習得し、現状を改善するためのアクション・プランを作成する。□</p> <p>【2】1. 改善及び5Sの考え方と産業界における沿革 2. 製造現場における改善のアプローチについて理解する 3. 5S活動の進め方について理解する 4. 問題解決手法を習得する 5. アクション・プランを作成する□</p> <p>【3】講義：トヨタ生産方式、5S活動の進め方、問題解決の進め方 演習：生産現場における5S、生産管理、問題解決演習、問題・目標分析、アクション・プラン作成 見学：製造業を中心とする企業訪問 発表：ジョブ・レポート発表、アクション・プラン発表□</p>	<p>製造業に従事することが望ましい。実務経験は大学卒業後3年以上を有する者。</p> <p>学歴：大学卒業程度 経験年数：3 年齢：不問 日本語能力：日本語または英語で読み、書き、話すことができること□ 英語・多言語：日本語または英語で読み、書き、話すことができること□ 備考：</p>	<p>提案団体：一般財団法人日本国際協力センター□</p> <p>担当者名：西田 喜実子</p> <p>E-mail: nikkei@jice.org Site: https://jice.org/</p>
C14	起業・後継者のための経営力強化□	10	上	5/7	6/9	<p>【1】研修員が、事業経営に必要な知識やスキルを習得するとともに、経営者としての役割や社会的責任を自覚する。また、起業あるいは事業の継承・拡大の構想を明確にし、具体的かつ実現可能性のある事業計画書を作成する。□</p> <p>【2】1. 経営者として、事業の継続・拡大に向けた自身の役割と責任を自覚するようになる 2. 経営管理のノウハウと分析手法を習得する 3. マーケティング戦略と手法を習得する 4. 財務の知識とスキルを習得する 5. 事業計画を策定する□</p> <p>【3】講義（演習・事例紹介を含む）：中小企業の経営革新の取組み、経営管理のポイント、経営者に求められるリーダーシップ、日本の企業文化と経営者、マーケティング戦略、問題解決フレームワーク、経営環境分析、損益計算分析 企業訪問：参加者の業種・業態に応じて選定。 事業計画書作成：講師（中小企業診断士）による個別相談を含む。 発表：ジョブ・レポート、アクション・プラン□</p>	<p>起業した経営者或いは具体的な構想をもって起業しようとする者及び事業後継（予定）者、当該事業分野における実務経験で大学卒業後5年以上を有する者。</p> <p>学歴：大学卒業程度 経験年数：5</p> <p>年齢：不問 日本語能力：日本語または英語で読み、書き、話すことができること□ 英語・多言語：日本語または英語で読み、書き、話すことができること□ 備考：</p>	<p>提案団体：一般財団法人日本国際協力センター□</p> <p>担当者名：西田 喜実子</p> <p>E-mail: nikkei@jice.org Site: https://jice.org/</p>

2023年度日系社会研修員受入事業

コース一覧表（上半期分）

No.	研修科目 和文	人数 受入 上	上下	来日 日	終了 日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
C18	キューバ日系社会活性化	6	上	5/7	6/2	<p>【1】1. 団体運営に関する知識と運営に関する手法を身に付ける。 2. 日本人移住、日系社会に関する歴史資料の価値を理解し、資料の収集や保存に関する知識・技術、資料の活用方法を身に付ける。 3. 日本文化に関する基礎的知識及び日本文化普及促進のための技術を身に付ける。□</p> <p>【2】研修員に、団体運営に関する知識と運営に関する手法が習得される。 研修員に、日本人移住、日系社会に関する歴史資料の価値を理解し、資料の収集や保存に関する知識・技術、資料の活用方法が習得される。</p> <p>【3】【講義】 日系団体の役割/各国日系団体活動事例/日本人移住の歴史とニッケイ・アイデンティティ 日本文化・年中行事/イベント運営の方法/教室運営 歴史資料の収集の意義/ICT技術を活用した歴史資料の展示/移民誌編集の方法/教育プログラム作成方法 人的リソース活用法</p> <p>【演習】 伝統文化体験/歴史資料の収集・保存の方法/イベント運営の方法 ファシリテーション手法/ファンドレイジング手法/VMOS構想演習/BMC演習</p> <p>【視察】 移住関連施設・団体視察/日本文化関連施設視察 □</p>	<p>キューバ国の日系団体に所属しているか、日系団体の活動や運営に積極的に参加している者。 ※近年の日系団体においては日本の文化習慣に関心を持つ非日系人の存在は欠かせないため、日系・非日系を問わない。□ 学歴：不問 経験年数：3 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：</p>	<p>提案団体：公益財団法人海外日系人協会□ 担当者名：中井扶美子 E-mail：kenshu@jadesas.or.jp Site：https://www.jadesas.or.jp/</p>
C19	食を通じた日系団体活性化	6	上	5/7	6/9	<p>【1】研修員が、食を通じた地域活性化のための日系団体活動に関する知識を習得する。□</p> <p>【2】1. 研修員に、日本食を中心とした調理技術が習得される。 2. 研修員に、食を通じた特産品の開発、地域おこし等の地域活性化に関する知識が習得される。 3. 研修員に、所属団体が抱える課題解決手法が習得される。□</p> <p>【3】1. 講義：日系社会と日系団体活動、日本の非営利活動等 2. 視察：先進農協、地域団体他 3. 実習：調理実習等□</p>	<p>日系団体青年部等に所属し、諸活動に積極的に参加している者（婦人部部員を対象とした類似コースを別に実施しているため、それ以外の団体、部署に所属している者を優先する）□ 学歴：不問 経験年数：1 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：</p>	<p>提案団体：公益財団法人海外日系人協会□ 担当者名：中井扶美子 E-mail：kenshu@jadesas.or.jp Site：https://www.jadesas.or.jp/</p>
C20	日系継承教育（教師育成Ⅲ）□	6	上	6/18	7/26	<p>【1】研修員が、継承教育に関する知識（ことば、文化、歴史（移住学習を含む））および指導技術を習得する。</p> <p>【2】1. 研修員に、日系継承教育に関する知識が習得される。 2. 研修員に、初中級及び中級レベルの指導に関する知識および技術が習得される。 3. 研修員に、学校運営や人材育成に関する基礎的な知識が習得される。□</p> <p>【3】1. 講義： ①日系継承教育に関する知識の習得 継承教育と地域・社会（移住学習（教材開発）、ことばと教育（実践コミュニティ）など） ②初中級及び中級レベルの指導に関する知識および技術の習得 初中級及び中級レベルの日本語教授法（中級指導法、教育ICT活用法、アクティブラーニングなど） ③学校運営や人材育成に関する基礎的な知識の習得 日系日本語学校運営の基礎知識、人的資源管理、ファシリテーション手法、評価法など 2. 視察：公立校、都内日本語学校、教育系NP0、日本文化施設など 3. 演習□</p>	<p>・日系移住者子弟の教育を目的として設立された日系学校に勤務する教師（継承教育を実践する教師を育成することを目的とした研修であるため）</p> <p>・原則、日系継承教育（教師育成Ⅱ）コースを受講した者 ※上記コースの受講経験がない者でも経験年数7年以上または教授時間700時間以上の経験を有する者で、本コースからの受講を希望する者は可（教師育成Ⅱ修了レベルもしくは、中級クラス担当者または担当予定者） ※中堅教師のレベルアップを目的とするため、相当程度の実務経験が必要</p> <p>・日本語能力試験N2程度以上の能力を有すること（初中級の指導法習得を目標とするため、それ以上の日本語力が必要）□ 学歴：不問 経験年数：必要資格に記載 年齢：不問 日本語能力：N2 英語・多言語：不問 備考：</p>	<p>提案団体：公益財団法人海外日系人協会□ 担当者名：中井扶美子 E-mail：kenshu@jadesas.or.jp Site：https://www.jadesas.or.jp/</p>
C21	日系継承教育（教師育成Ⅰ）□	6	上下	12/3 (9/1通信講座開始)	2/8	<p>【1】研修員が、継承教育に関する基礎的な知識（言葉、文化、歴史（移住学習を含む））及び指導技術を習得する。□</p> <p>【2】1. 研修員に、継承教育を担う教師としての基礎知識が習得される。 2. 研修員に、継承教育・言語（発達）教育の基礎理論が理解され、実践方法が習得される。 3. 研修員に、継承教育におけることばに関する知識及び指導技術が習得される。 4. 研修員に、継承教育における文化的活動の基礎的指導技術が習得される。□</p> <p>【3】1. 講義： (1) 継承教育を担う教師としての基礎知識（通信：ブラジル日本語センター） ①日本語能力試験N2相当レベルの日本語力の習得 ②日本語文法、教授法等の専門用語の理解 ③報告書資料及びプレゼンテーション資料作成のための基礎的技術 ※日本語能力試験N2以上取得者は②③のみ。 (2) 継承教育・言語（発達）教育の基礎理論 継承教育と人格形成（日系継承教育の考え方、日本の歴史と移住の歴史） (3) 継承教育とことば ことばの教育（概論、日本語授業の研究（一般/年少）、技能別指導法） (4) 継承教育と文化 こどもと文化活動（日本語学校と文化活動・日本文化体験・伝統文化と現代文化） 2. 視察：公立校、移住関連施設、日本文化施設など□</p>	<p>・日系移住者子弟の教育を目的として設立された日系学校に勤務する教師（継承教育を実践する教師を育成することを目的とした研修であるため）</p> <p>・経験1～3年程度または教授時間300時間程度。 ※上記以上の経験年数または教授時間であっても、本コース受講経験がない場合は応募可。 ・日本語能力試験N3程度以上の能力を有すること（全講義、日本語で実施されるため）□ 学歴：不問 経験年数：必要資格に記載 年齢：不問 日本語能力：N3 英語・多言語：不問 備考： ・本コースは来日研修前に9月より通信教育を実施する予定です。 ・応募締切は6月来日コースの締切日です。</p>	<p>提案団体：公益財団法人海外日系人協会□ 担当者名：中井扶美子 E-mail：kenshu@jadesas.or.jp Site：https://www.jadesas.or.jp/</p>

2023年度日系社会研修員受入事業

コース一覧表（上半期分）

No.	研修科目 和文	人数 受入 上	上下	来 日 日	終 了 日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
C23	日系社会地域資源の保存技術と活用	8	上	7/23	8/11	<p>【1】研修員が現地日系社会の伝統資源を認識し、修復、保存、活用に関する必要な知識と技術を習得する。</p> <p>【2】1. 地域資源としての日系社会の伝統資源を認識する知識と技術を習得する。 2. 地域資源の現状評価（非破壊分析）、修復計画、修復技術に関する知識と基礎的技術を習得する。 3. 地域資源のデジタル・アーカイブ化に関する知識と技術を習得する。 4. デジタル・ファブリケーション技術を活用し、地域資源の複製作成などに関する知識と技術を習得する。 5. 日系社会でのイベントなどにおいて、地域資源の活用を計画、実行、評価する技術を習得する。 6. 地域資源の活用経験の形式知化に関する知識と技術を習得する。</p> <p>【3】1. 講義：1) 地域資源の活用に関する概論、2) 岡山県における地域資源の具体的な活用事例、3) 地域へのインパクト、4) 地域資源の現状評価、5) 評価技術の理論と応用、6) 修復計画の作成と具体事例、7) 修復技術概論、8) デジタル・アーカイブ技術と応用、9) デジタル・ファブリケーション技術（FabLab）の概論、10) FabLabの活用事例と教訓、11) 地域イベントのプロジェクト・マネジメント手法、12) 形式知化の技術と応用 2. 実習：1) デジタル写真などを活用した文化財の調査手法、2) 文化財の各種非破壊検査手法、3) 修復計画作成シミュレーション、4) 修復技術の基礎実習、5) デジタル写真の撮影、6) デジタル・アーカイブ作成、7) FabLabの基本機材（レーザー・カッター、3Dプリンターなど）の基礎操作、8) 地域イベントを想定した各種コンテンツ作成、9) 地域イベントのコンテンツ作成で学んだことを形式知化手法 3. 視察・見学：1) 吉備国際大学文化財総合研究センター（高梁市）、2) 備前おさふね「刀剣の里」、3) 長島愛正園歴史館、4) 備前焼の展示場（瀬戸内市伊部）、5) 瀬戸内市内・近郊の碑文、5) ライフタウンまび内デジタル工房まび（倉敷市真備町） 4. 発表：学内</p>	<p>・PCの基礎的な操作（Word、Excel、PPTなど）ができることが望ましい。</p> <p>・日系社会の地域活動などへの主催者としての参加経験（企画、コンテンツ作成、運営スタッフなど）が複数回あることが望ましい。</p> <p>学歴：不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：N3以上 英語・多言語：英語でのコミュニケーション可 備考：講師や実習先の都合があり、できれば8/20頃の来日をお願いしたい。（その場合、研修期間は、8/20～9/11となる想定）</p>	<p>提案団体：学校法人 順正学園 吉備国際大学外国学科</p> <p>担当者名：畝 伊智朗</p> <p>E-mail：tanbo@kiui.ac.jp Site：https://kiui.jp/pc/</p>
C24	日系ネットワーク強化を通じた地域振興	6	上	7/23	8/18	<p>【1】①ダイバーシティとグローバル社会を意識したネットワークマネジメント力を有する日系社会リーダーを育成する。 ②日系ネットワーク強化を通じた地域振興アクションプランを共創する。</p> <p>【2】①新たな日系ネットワークの構築と強化のアイデアと斬新な発想力を有するマネジメント力を習得する ②多様化した日系社会のアイデンティティをシナジーさせた地域振興プランの具体的なヒントを得る ③日系研修青年とローカルユースとの交流をととして日系社会に持続可能な新たなネットワークが構築される</p> <p>【3】高知で以下を通じた“ダイバーシティ・ネットワークマネジメント”プログラムを研修する。 1. 講義：「高知県のよさこい祭りをツールとして地域振興戦略」「青少年グローバルリーダー育成フォーラム」「よさこいで復活した万々商店街物語」「ネットワークでつくるコミュニケーション力」「ダイバーシティにおけるリーダーシップ論」「龍馬に学ぶネットワーク形成術と活用術」「国際交流を通じた青少年育成啓発プログラム」 2. 視察：高知よさこい情報交流館、高知城、高知城歴史博物館、龍馬の生まれた町記念館 3. 実習：よさこい鳴子踊り、青少年グローバルリーダー育成フォーラム 4. 発表：日系社会の現状と報告（カンントリーレポート）、アクションプラン（研修成果報告） 5. その他：高知県表敬、高知県議会表敬、ホームビジット</p>	<p>日系社会でのリーダー的役割を期待できる人材</p> <p>学歴：不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：</p>	<p>提案団体：高知希望工程基金会</p> <p>担当者名：山中 茂</p> <p>E-mail：chinatu6732@ybb.ne.jp Site：N/A</p>
C25	野球指導者の人材育成	6	上	5/7	6/7	<p>【1】日本式野球が伝統的に大切にしている「時間・ルールを守る」「ものを大切にする」「協調性を育む」「感謝・尊敬の気持ちを持つ」といった全人的な教育要素に加え、野球指導及びチーム運営、スポーツマネジメント能力の強化を図ることにより、日系社会における日本式野球を普及・継承していく人材が育成される。</p> <p>【2】1. プロ野球団の練習や指導方法を通じて、野球指導の手法を習得する。 2. 監督・コーチ・選手の連携や地域での活動を通じ、チーム運営の手法を習得する。 3. 地元少年野球チーム、高知県スポーツ課アスリート養成事業に係わる様々な競技団体と連携し、幼少期から多様なスポーツに触れる機会の創造と手法を習得する。 4. 栄養学やメンタルトレーニング等を通じ、私生活からケアできる手法を習得する。 5. 大学連携による課題に向けたアクションプランが作成される。</p> <p>【3】「野球コーチング・チームマネジメント」研修プログラム 【講義】コーチング論、トレーニング論、スポーツマネジメント論、スポーツ栄養学、メンタルトレーニング 等 【視察】高知FD公式戦、地元少年野球チーム、高校FD野球スクール、高知県軟式野球連盟主催U-10アカデミー 【実技・実習】高知FD公式戦マネジメント、練習参加（ウォーミングアップ・守備練習、打撃練習、打球練習） 【その他】地域の行事、小学校訪問などの地域振興イベントへの参加</p>	<p>日系社会で野球指導を精力的に行うことができる人材</p> <p>学歴：不問 経験年数：競技経験があることが望ましい 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：</p>	<p>提案団体：高知ファイティングドッグス株式会社</p> <p>担当者名：浅利 章太</p> <p>E-mail：asasho52.kfd@gmail.com Site：https://kochi-fd.com</p>

2023年度日系社会研修員受入事業

コース一覧表（上半期分）

No.	研修科目 和文	人数 受入 上下	来日 日	終了 日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名	
C27	Satoumiの推進（持続可能な開発のための海洋・海洋資源の保全と地域振興）	6	上	7/23	8/11	<p>【1】香川の里海における生物多様性の保全と持続可能な利用の実践事例からSATOUMIの概念を理解し、様々な関係者が協働して取り組む事例を学ぶことにより、自然環境の保全と住民の生計向上の両立という視点から自国における地域振興を導くための業務に活用される。</p> <p>【2】・香川県について理解する。 ・SATOUMIに関する施策について理解する。 ・里海における生物多様性保全と地域振興のための多様な主体の参画による協働管理システムについて理解する。 ・里海における生物多様性と地域振興のための能力構築や普及啓発について理解する。 ・海洋資源を利用したビジネス、地域振興策を習得する。</p> <p>【3】1.日本の事情を習得する。（日本人学生との交流を実施） 2.SATOUMIの概念、歴史及び国家戦略や香川県における里海の政策、取り組み等の講義。 3.香川県における地域振興の課題と実際の取り組み状況についての視察および事例研究。 4.海洋資源を利用した起業家との意見交換。 5.海洋資源を利用した振興策視察。</p>	<p>日系社会において地域振興、環境関連、自然保護等の経験があることが望ましい。 学歴：不問 経験年数：実務経験1年以上 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：</p>	<p>提案団体：香川大学 担当者名：尾上 能久 E-mail：Onoe.Yoshihisa@kagawa-u.ac.jp Site：https://www.kagawa-u.ac.jp/</p>
C29	日本の経営管理における人材育成	10	上	7/23	8/15	<p>【1】「従業員を育成し、大切に経営」を実践している会社は、一般の会社とどこが違うのか、なぜそのような経営が業績にも結び付くのかなどを研修員が理解し、優良企業の「経営管理手法」「人材育成の仕方」など具体的に即実践可能な経営ノウハウを習得し、実践計画を作成する。</p> <p>【2】1.研修員が「従業員を育成し、大切に経営」を実践している会社の強みを理解することで自国企業との差異を認識し、改めて「自社の強み」を明確にすることができる。 2.研修員が実践企業の実態を徹底研究することで、「経営理念の浸透方法」や「従業員とのコミュニケーションの取り方」、「人材育成を中心とした社内の仕組みづくり」、「5S」をベースにした「生産・品質管理技法」など「経営管理」の方法を習得する。 3.講義や実践企業の実例を参考に、研修員が自国で活用可能な制度や仕組みや経営の考え方を整理する。 4.研修員が、帰国後の具体的な実践計画を作成する。</p> <p>【3】1.講義・討議：「従業員を大切に経営とは」「経営理念の浸透方法」「人材育成を中心とした社内の仕組みづくり」 2.視察・懇談：「従業員を育成し、大切に経営」を実践している企業4社を徹底研究（ケース・スタディ） （視点） ・お客様から感謝される経営 ・5Sをベースとした生産・品質管理技法 ・従業員が働きやすい職場づくり ・従業員とのコミュニケーションの取り方 等 3.日本文化理解：「さぬきうどんづくり体験」、日本庭園「栗林公園」散策・抹茶体験 4.演習：「実践計画」作成 5.発表：「実践計画」発表</p>	<p>企業経営者・経営幹部、起業して間もない経営者、これから起業を考えている方 学歴：不問 経験年数：実務経験1年以上 年齢：不問 日本語能力：N4 英語・多言語：不問 備考：</p>	<p>提案団体：特定非営利活動法人グローバル四国 担当者名：河内 正則 E-mail：kawa-family@mx9.tiki.ne.jp Site：</p>
C32	早期胃癌の内視鏡診断と治療	6	上	5/7	6/10	<p>【1】世界トップレベルの日本の内視鏡診療の現状を把握し、最新機器を用いた早期胃癌の発見法と治療法を学ぶ</p> <p>【2】・日本の内視鏡診療で用いる機器や知識を習熟できる ・次世代型トレーニングモデルや豚切除胃を用いた治療内視鏡のシミュレーション学習により、治療内視鏡の技術とコツを学ぶ ・帰国後の自国における具体的な活動計画を作成する ・インターネットを用いて日本と自国の遠隔医師教育講座を開催し、継続的な医療教育を行うことで自国における早期胃癌の診療レベル向上に寄与する</p> <p>【3】1.講義：最新の内視鏡診断や内視鏡治療に関する論文の討論会への参加 2.見学：九州大学病院および関連施設における内視鏡検査の見学と討論 3.実習：粘膜モデルやブタから切除した臓器を用いた内視鏡治療の実習 4.学会参加：日本消化器内視鏡学会や日本消化器病学会を中心とした学会、研究会への参加 5.発表：病院内で研修内容を発表</p>	<p>医師（内視鏡経験が1年以上で年齢55歳以下） 経験年数：医学部卒業後3年以上かつ臨床経験3年以上 学歴：大卒程度 経験年数：3年 年齢：55歳以下 日本語能力：不問 英語・多言語：技術研修は英語で実施 備考：</p>	<p>提案団体：国立大学法人 九州大学 担当者名：森山 智彦 E-mail：tomohiko.moriyama.153@m.kyushu-u.ac.jp Site： http://plaza.umin.ac.jp/imed/en/index.html</p>
L1	作業療法学	1	上	5/7	2/1	<p>【1】作業療法教育および臨床実践</p> <p>【2】1.成人中枢神経障害、運動器障害、発達障害、精神障害に対する作業療法 2.高齢者の在宅・施設生活での作業療法 3.作業療法研究法</p> <p>【3】1.学部・大学院授業の聴講 2.臨床作業療法の見学 3.作業療法関連学会、技術講習会への参加 4.日本人学生・大学院生との交流会 5.現地の関連施設の見学</p>	<p>現地の作業療法士資格または理学療法士資格を有している者（学士もしくは同等程度の学力） 学歴：大学卒業程度 経験年数：1年以上 年齢：不問 日本語能力：N3以上 英語・多言語：英語でのコミュニケーション可 備考：研修では医療機関での見学を含むため、来日する際には4種（麻疹・風疹・水痘・ムンプス）抗体検査結果に基づくワクチン接種、B型肝炎抗体価が陽性、COVID-19ワクチン3回接種を終えている必要がある</p>	<p>提案団体：札幌医科大学 担当者名：作業療法学科 学科長 仙石 泰仁 E-mail：sengoku@sapmed.ac.jp Site：https://web.sapmed.ac.jp/</p>

2023年度日系社会研修員受入事業

コース一覧表（上半期分）

No.	研修科目 和文	人数 受入 上	上下	来日 日	終了 日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
L2	理学療法学	1	上	5/7	2/1	<p>【1】基礎的理学療法を理解し、日本における理学療法の役割や機能を説明できること。</p> <p>【2】 1. 成人中枢神経障害、小児発達障害の理学療法 2. 運動器障害（スポーツ障害を含む）の理学療法 3. 地域における高齢者に対する理学療法サービス（介護予防を含む） 4. 理学療法研究法</p> <p>【3】 1. 学部・大学院授業の聴講 2. 臨床理学療法の見学 3. 理学療法関連学会、技術講習会への参加 4. 理学療法関連実験への参加 5. 日本人学生・大学院生との交流会 6. 現地の関連施設の見学</p>	<p>現地の理学療法士資格を有している者（学士又は同等程度の学力） 学歴： 学士又は同等程度の学力 経験年数：実務経験3年以上 年齢：不問 日本語能力：N2 英語・多言語：不問 備考：研修では医療機関での見学を含むため、来日する際には4種（麻疹・風疹・水痘・ムンプス）抗体検査結果に基づくワクチン接種、B型肝炎抗体価が陽性、COVID-19ワクチン3回接種を終えている必要がある</p>	<p>提案団体：札幌医科大学 担当者名：理学療法学科 学科長 渡邊 耕太 E-mail: wkota@sapmed.ac.jp Site: https://web.sapmed.ac.jp/</p>
L3	ドローン・リモートセンシング技術による持続型森林・農地管理手法	4	上	上半期いずれかで相談可		<p>【1】農業、森林、環境管理に必要なGIS技術、GPS技術、マイクロ波リモートセンシング技術、ドローンの活用技術を習得する。</p> <p>【2】 1) GIS技術：GISソフトArcGISの基本的な操作、解析手法を習得する。 2) GPS技術：GPSによる農地計測、デジタルカメラとGPSを利用した農地管理。野生動物へ装着するGPSによる野生動物の行動解析手法を習得する。 3) リモートセンシング技術：ドローン、ErdasImagine、ENVI、SNAPなどリモートセンシングソフトを利用し、Sentinel-1、Landsat、Alosなどの人工衛星画像や空中写真などから、緑地抽出手法、収量予測手法などを習得する。</p> <p>【3】環境空間情報学研究室、環境リモートセンシング研究室、フィールド情報学研究室において開講している高度なGIS技術を習得する専門演習に参加し、技術の向上を図る。また、出身国（地域）の実際のGISデータ、衛星画像を使い、ソフトの操作方法のみならず、GISデータを収集整備する。また、GIS、リモートセンシングを活用した森林管理（REDD）や野生動物管理に関するJICA研修へも参加し、研究及び情報交流を図る。なお、使用する機器やEラーニングコース及びソフトの一部は、帰国後にも活用できるよう、本学が提供する。新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、来日がかなわない場合は全ての研修内容をオンラインでも対応が可能である。詳しくは、様式-1のE-mail: tech@rakuno.ac.jpに直接問い合わせください。</p>	<p>表計算ソフトの操作など、基本的なコンピュータ操作が可能なこと。（リモートセンシングソフトの操作については問わない） 学歴： 不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：英語でのコミュニケーション可 備考：応募締切は5月来日コースの締切日です。</p>	<p>提案団体：酪農学園大学 担当者名：教授 小川 健太/ 教授 森 夏節 E-mail: tech@rakuno.ac.jp Site: https://www.rakuno.ac.jp</p>
L4	食品科学と栄養管理	2	上	5/7	3/5	<p>【1】① 食品科学と栄養学の見地から、出身国に最適な形の栄養管理を行える力、技術を習得する。 ② 生活習慣病予防の見地から、帰国後活用できる栄養疫学、公衆衛生、食品衛生、栄養管理の知識を増やす。 ③ 日本の専門料理、家庭料理、日本の食文化を学ぶ。</p> <p>【2】特別な機器、食材を使わずに日常の栄養管理を確実に、かつ正確に行うことができる力が付く。実践的な日本の家庭料理の味の工夫が行え、高齢社会において個人の尊厳を守り、日々の暮らしのQOL維持に尽力できる人材となる。最新の世界の栄養状況を学ぶことで、母国の栄養改善の担い手となる。そして身近な食材で料理講習会を立案、運営できる能力を習得し、食べることの重要性、栄養摂取について様々な年齢層に栄養指導が行える力が習得できる。</p> <p>【3】研究員の希望を聞き、より帰国後の仕事に生かせるプログラムを作成して進める。前半は、大学の希望する授業、栄養実習、料理実習、研究室のゼミナール等に参加し食、料理、栄養について広く学ぶ。後半はより関心のある分野に力点を置いて実習を進める。科学的な見地からの研究、栄養疫学、食事と健康の調査にも参加する。帰国後の栄養調査、料理講習会ができる力を身に付けることを目的とし、定期的に習得状況を確認、相談しながら研修を進める。食に関わる各種の科学的な分析、衛生に関わる研究も併せて実施することが可能で、各種の学会へ参加し見聞し、希望があれば研究成果の学会発表も行う。帰国後の各研修、調査の継続に向けての検討、準備を行う。</p>	<p>食を食べること、料理、栄養について関心を持っていること。 学歴： 不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：本研修はある程度までは英語、スペイン語で対応できますが、日本語を習得する意欲がある方を希望</p>	<p>提案団体：酪農学園大学 担当者名：教授 石井 智美 E-mail: ishii@rakuno.ac.jp Site: https://www.rakuno.ac.jp</p>
L5	日本の伝統的造園施工技術	1	上	上半期いずれかで相談可	来日日から約5か月後	<p>【1】各国でつくられてきた日本庭園をはじめとし、各空間にみられる植栽・施工管理に応用できる日本の伝統的植栽や施工管理技術の基礎を習得する。□</p> <p>【2】①主要な日本庭園で使われる材料（植物、無機物）の習得 ②植物管理の意義と手法の習得 ③基本的な庭園技術（竹垣等）の習得□</p> <p>【3】1. 講義：①日本庭園の構成、②日本庭園の材料（植物・無機物）、③日本庭園の材料の扱い方、④都市空間への応用技術 2. 実習：植物管理（剪定）の手法、竹垣の製作技術、土壌管理・分析法 3. 見学：東京都内、京都、地方（石川県や鹿児島県、島根県）の日本庭園□</p>	<p>造園、園芸、農業、都市計画の研究・教育や職業に携わっている方□ 学歴： 大学卒業程度 経験年数：1 年齢：不問 日本語能力：N2 英語・多言語：英語でのコミュニケーション可 備考：応募締切は10月来日コースの締切日です。5月8日に来日の場合は技術研修期間は9/30までの予定です。6月及び7月来日となった場合も、同様に約5か月の研修を受講いただきます。</p>	<p>提案団体：学校法人 東京農業大学□ 担当者名：鈴木貢次郎 E-mail: kojiros@nodai.ac.jp Site: https://www.nodai.ac.jp/cip/□</p>

2023年度日系社会研修員受入事業

コース一覧表（上半期分）

No.	研修科目 和文	人数 受入 上	上下	来 日 日	終 了 日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
L6	家畜寄生虫病および人獣共通寄生虫病の診断予防技術	2	上	5/7	2/6	<p>【1】研修員は、獣医衛生および公衆衛生上重要な動物および魚類の寄生虫病の診断、治療、予防に関する知識、技術および考え方を習得し、これらを活用して、寄生虫病予防対策に係わる情報資源の作成・配信の方法を学ぶ。</p> <p>【2】1. 動物衛生および公衆衛生に関する知識の蓄積および寄生虫病の診断・予防技術の習得。 2. 食品由来病原体制御のための国家間情報ネットワークの構築。 3. 日系社会における畜産や水産業発展のための技術の習得。 4. 日本の文化、社会および国際的立場についてのより一層の理解。□</p> <p>【3】1. 講義：動物（魚類を含む）の寄生虫病および人獣共通寄生虫病の診断予防法、原虫、蠕虫、衛生節足動物などの検出法および同定法などについて学ぶ。</p> <p>2. 実習： (1) 糞便内虫卵検査（浮遊法、沈澱法、定量的検査法）。 (2) 子虫培養（びん培養、濾紙培養、瓦版培養）、胃腸内線虫感染子虫の形態による種同定。 (3) 魚類寄生虫の観察と同定。 (4) 吸虫標本の作製、観察と同定：肝蛭、槍形吸虫、双口吸虫、肺蛭、日本住血吸虫など。 (5) 中間宿主体内の吸虫の発育観察：ミランジウム、スポロシスト、レジア、セルカリア等。 (6) 糸虫標本の作製と観察：ベネデン糸虫、拡張糸虫、単包糸虫、多包糸虫等。 (7) ダニ類の観察と標本作製法と同定：マダニ、ヒゼンダニ、ワクモ、イエダニ等。 (8) 昆虫類の観察と同定：ノミ、シラミ、ハジラミ、カ、ゴキブリ等。 (9) 分子生物学的手法(PCR、Real-time PCR、LAMP法等)を用いた寄生虫同定法。 (10) 寄生虫</p> <p>3. 見学：家畜保健所、家畜診療所、食肉衛生検査所、水産試験場、大学の研究センター等。 4. 学会・セミナー：国内学会参加、研究室のセミナー参加。 5. 発表：学内あるいは国内の研究会や学会、最終日の研修報告。</p> <p>以上の他に、研修者の要望を聞き、当人が学びたい技術をできるだけ習得させる。”□</p>	<p>生物学の基礎知識を持つ者、畜産あるいは公衆衛生学に関わる者、臨床検査技師や薬剤師の資格保持者等。□ 学歴：※大学卒業程度 大学あるいは大学院を卒業している方。 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：N4 ※一般的なコミュニケーションが可能な方。 英語・多言語：英語でのコミュニケーション可 ※一般的なコミュニケーションが可能な方。 備考：研修受け入れ時期や期間については相談に応じる。申請案では2人を受け入れるとしているが、1人でも受入れ可能。□</p>	<p>提案団体：麻布大学□ 担当者名：平 健介 E-mail：taira@azabu-u.ac.jp Site: https://www.azabu-u.ac.jp/english/□</p>
L7	Agro-Biodiversity の保全を目指した土壌管理手法	2	上	5/7	11/15	<p>【1】研修目標は、持続可能な農法を習得するとともに、住民参加型手法による土壌管理技術や生物多様性の保全について習得することである。 □</p> <p>【2】中南米で適用可能な持続可能な農法を習得するとともに、生物多様性に配慮しつつ長期的に農業生産量を維持できる土壌管理技術を習得できる。 1. 中南米で適用可能な持続的農法を習得する。 2. 土壌管理および生物多様性の保全に関する体系的な知識を習得する。 3. 住民参加型手法を習得する。 4. 生物多様性評価を含む土壌分析技術を習得する。 □</p> <p>【3】1. 講義 (Lectures)：全て英語での開講科目 2. 実習 (Field Practices)：有機農業資材の作成法、有機農業実習 等 3. 調査 (Research)：土壌中動物の多様性に基づいたAgro-Biodiversityの評価 等 4. フィールドワーク (Field Activities)：日本の里地里山における生物多様性を考慮した土壌保全対策の視察 5. 実験 (Experiments)：土壌分析に関する専攻実験、基礎実験 6. セミナー (Seminar)：大学院生や専門家との意見交換 等</p>	<p>環境や農業に関連する知識または経験を有するものが望ましい □ 学歴：大学卒業程度 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：英語で資料読解、発表、レポート作成 備考：Information on 1. organized and 2. co-organized bodies 1. Institute of Environmental Rehabilitation and Conservation (ERECON): ERECON founded in 2000 is the international non-profit organization (www.erecon.jp) registered in Tokyo Metropolitan Government as well as Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT). This institute has been advancing various international extension programs in the fields of sustainable development in agriculture. 2. Faculty of Regional Environment Science, Tokyo University of Agriculture (Tokyo NODAI): Tokyo NODAI founded in 1891 is one of the oldest universities in agricultural field (www.nodai.ac.jp) and strong in agricultural and agro-environmental education and research.”□</p>	<p>提案団体：特定非営利活動法人 環境修復保全機構 担当者名：河邊 久美子 E-mail：hq-erecon@nifty.com Site: https://www.erecon.jp/</p>

2023年度日系社会研修員受入事業

コース一覧表（上半期分）

No.	研修科目 和文	人数 受入 上	上下	来 日 日	終 了 日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
L8	知的財産活用に関する基礎研修	2	上	5/7	10/6	<p>【1】 (1) 知的財産制度の基礎知識を修得する。 (2) 研究開発・技術移転などの知的財産活用に関する知識を修得する。 (3) 中小企業（SMEs）を支援する知的財産支援の手段を理解する。 (4) 伝統的知識や医薬品アクセスの問題など個別の知的財産問題を理解する。 【2】 (1) 経済活動や文化活動に必要な知的財産、および、そうした知的財産に関する活動を理解して、適切に考慮することができる。 (2) 特許権、商標権について、出願から権利取得までに必要な知識を獲得し、将来的にその知識を実務において活用することができる。 (3) ライセンス契約、訴訟をはじめとする知的財産の活用、実現に必要な具体的な実務を理解することができる。 (4) 研修員自らが設定する知的財産の課題についての理解を深め、自国においてその課題を解決するために必要な計画や提案を示すことができる。 【3】 (1) 基礎知識の習得－講義を中心に、特許・実用新案、意匠、商標、著作権法、不正競争、知的財産契約、国際条約、知的財産戦略、知的財産の経済的效果などを学ぶ。 (2) 特許技術、登録商標、判例の調査分析演習－技術データベース、法情報データベースを用いて、必要な情報を収集し、分析する。 (3) 訪問調査－日本国内の関係官庁（特許庁、裁判所ほか）、関係団体（発明協会などの専門機関）、企業・事務所（代表的企業、中小企業、特許法律事務所）などを訪問し、ヒアリング調査を行う。 (4) 研究－研修生自らが設定した知的財産に関する課題について、教員の指導を受けて、研究を遂行する。</p>	<p>大学の学部レベルの教育を受けていること。法律、経済、技術の分野において、少なくとも1年以上の経験を有すること。知的財産分野における経験があれば望ましい。 学歴：大卒 経験年数：1 年齢：不問 日本語能力：N4 英語・多言語：英語での資料読解、発表、レポート作成可 備考：</p>	<p>提案団体：大阪工業大学大学院知的財産研究科 担当者名：内藤 浩樹 E-mail：hiroki.naito@oit.ac.jp Site: http://www.oit.ac.jp/ip/graduate/</p>
L9	日本式の高品質肉牛生産のための効率的・効果的な生産、繁殖、健康管理	1	上	5/7	2/23	<p>【1】最新の畜産学・獣医学の知見の習得と共に、高品質畜産物の生産現場での実習に基づき、生産と共に両立させるべき繁殖管理も円滑に進めるための問題要因を抽出・解析する能力を習得し、新しい効率的な疾病予防、繁殖、衛生管理等を含む総合体系を導入・展開するための基盤を習得する。 【2】1. 高品質畜産物を生産する上で求められる最新の栄養学、生理学、衛生学等の獣医学、生産効率向上と繁殖についての知識・知見の習得、2. 国際牛肉の格付け方法の習得、3. 生産に関わる細胞や遺伝子について、分子レベルや細胞レベルでも家畜生産について考える能力の習得、4. 牛肉生産施設訪問を通じた改善ポイントの習得。 【3】1. 最新の栄養学、生理学、衛生学等の講義と実習、2. 牛肉の格付け方法、3. 生産に関わる細胞の培養や遺伝子発現解析、4. 臨床獣医師養成用の実習参加、5. 牛肉生産施設訪問。</p>	<p>・基本的な動物についての知識を身に付けていること。 ・獣医師でなくても、畜産農家の子弟や畜産関係者や就農希望者であれば可能。 ・異文化の中で多くの人と一緒に働くための適応力と協調性。 ・好奇心旺盛で勉強好きであること。 学歴：大卒（相当） 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：新基準N4レベルが望ましいが、英語でコミュニケーションが出来れば問題ない。 英語・多言語：不問 備考：</p>	<p>提案団体：国立大学法人 山口大学 担当者名：角川 博哉 E-mail：hiroya@yamaguchi-u.ac.jp Site: http://www.yamaguchi-u.ac.jp/</p>
L10	日本の看護技術・知見の習得及び日系アイデンティティの涵養	1	上	7/23	1月	<p>【1】日本の大学や病院での講義及び実習を受けることで、日本の医療制度、看護技術の知見を習得するとともに、自身のルーツとなる土地や日本文化を知り、日系アイデンティティの涵養を図る。 【2】1. 日本の医療制度が理解される。 2. 日本の看護技術・知見が習得される。 3. 自国で応用可能な内容を整理し、実践できるようになる。 4. 日本の伝統文化等に関する知識を習得する。 【3】1. 大学における講義及び実習に参加 ①講義：大学にて講義に参加 ②実習：県内総合病院での実習に参加 2. 病院での実習 ①病院が指示する部署で看護助手業務のサポートを行う。 3. 日本文化等に関する視察・実習等 4. 関係者への研修結果の報告</p>	<p>・日系団体の青年部等に所属している者、または今後所属する意思がある者で、当該団体からの推薦を得られること（研修効果に鑑み、島根県人会等、島根県にルーツが有る者が望ましい） 学歴：大卒（相当） 経験年数：1 年齢：不問 日本語能力：N3程度以上が望ましい。 英語・多言語：英語でのコミュニケーション可 備考：</p>	<p>提案団体：島根県 担当者名：増田 絢子 E-mail：bunka-kokusai@pref.shimane.lg.jp Site: http://www.pref.shimane.lg.jp/</p>
L11	観光果樹園経営及び果樹栽培収穫技術に係る長期研修	1	上	5/7	11/17	<p>【1】1. 果樹（イチゴ、スモモ、ブルーベリー、モモ、ブドウ等）の先端的栽培及び収穫に係る技術を習得する、2. 加工技術と商品化、マーケティングのノウハウを習得する、3. 観光果樹園の経営手法を習得する。 【2】1. 果樹栽培管理技術の向上、2. 加工品の商品化、販売ルートの開拓、観光農園経営の成功。 【3】平田観光農園の業務に従事し、実習を積み重ねて技術を習得する（最も重要な開花期の受粉から収穫が終わるまでを研修する）。</p>	<p>日本語で研修受講が可能な語学力を有していること。 学歴：不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：N3以上 英語・多言語：不問 備考：</p>	<p>提案団体：公益財団法人 ひろしま国際センター 担当者名：迫本 啓吾 E-mail：hicc12@hiroshima-ic.or.jp Site: http://hiroshima-ic.or.jp/</p>

2023年度日系社会研修員受入事業

コース一覧表（上半期分）

No.	研修科目 和文	人数 受入 上	上下	来 日 日	終 了 日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
L12	伝統的産品を活用した地域ブランドの創出と地域の活性化	1	上	5/7	11/10	<p>【1】1.「工房尾道帆布」における実習を通して尾道の地域産品（帆布）を活用した地域特産品の製造、販売、マーケティング等の取組みを学び、帰国後の日系社会における地域資源の再発見・活用につながる力を養う。</p> <p>2.「工房尾道帆布」や尾道の地域再生に取組む人々との交流を通じ、地域課題解決における住民の主体的な関与の大切さや地域活性化の方策について知見を得る。</p> <p>【2】1.研修員に、「工房尾道帆布」の事例を通じて、地域資源の再発見と活用、地域特産品開発を通じた地域課題の解決、地域再生の知見が習得される。</p> <p>2.研修員に、日本の地方コミュニティにおける課題（人口減少、アイデンティティの喪失、地域資源の活用等）が理解される。</p> <p>3.研修員の母国において応用可能な技術、手法が整理される。</p> <p>4.帰国後の具体的な活動計画が作成される。</p> <p>【3】1.講義：「工房尾道帆布」における地域特産品開発と地域再生の取組み。</p> <p>2.実習・OJT：「工房尾道帆布」における地域特産品の製造、販売、マーケティング等。</p> <p>3.見学：関連他団体の施設・活動。</p> <p>4.演習：研修成果の取り纏め。</p> <p>5.発表：関係者への研修成果の発表。</p>	<p>手芸、デザイン等の分野での地域産品の開発に関心があること。経験があれば、より高い研修効果を期待できる。</p> <p>学歴：不問</p> <p>経験年数：不問</p> <p>年齢：不問</p> <p>日本語能力：N3以上</p> <p>英語・多言語：不問</p> <p>備考：</p>	<p>提案団体：公益財団法人 ひろしま国際センター</p> <p>担当者名：迫本 啓吾</p> <p>E-mail: hicc12@hiroshima-ic.or.jp Site: http://hiroshima-ic.or.jp/</p>
L13	歯科補綴学	2	上	5/7	3/6	<p>【1】 歯科補綴治療に関する先進技術の習得と最新の知見を学習する能力を身につける。</p> <p>【2】 1. 最新の歯科補綴治療技術（接着ブリッジ、インプラント義歯、CAD/CAM冠など）の習得</p> <p>2. 上下歯のかみ合わせの状態に対する診断技術の向上</p> <p>3. 口腔顔面痛に対する治療技術の習得</p> <p>4. 金属アレルギーの治療技術の習得</p> <p>【3】 教室主催のセミナー・論文抄読会・症例勉強会への参加、マネキンを用いた基礎実習、コンピュータを利用した補綴装置の設計や削りだしの実習、関連学会への参加を予定している。また、現在教室で行われている研究（睡眠時ブラキシズムの解析、組織再生、金属アレルギー解析、口腔顔面痛発症メカニズムなど）にも参画し、大学院進学が可能となるように研究指導を行う。なお、受け入れ担当者は、日本補綴歯科学会、日本顎関節学会、日本口腔顔面痛学会、日本口腔リハビリテーション学会の指導医である。</p>	<p>対象国における歯科医師免許</p> <p>学歴：大学卒業</p> <p>経験年数：実務経験3年以上。</p> <p>実務経験、最終学歴後の実務経験等。</p> <p>年齢：不問</p> <p>日本語能力：不問</p> <p>英語・多言語：英語でのコミュニケーションがある程度可能であること。</p> <p>備考：</p>	<p>提案団体：徳島大学</p> <p>担当者名：松香 芳三</p> <p>E-mail: matsuka@tokushima-u.ac.jp Site: http://www.tokushima-u.ac.jp/dent/</p>
L14	歯科矯正学	1	上	5/7	3/6	<p>【1】 矯正歯科治療に関する高度な技術の習得と最新の知見を学習する能力を身につける。</p> <p>【2】 ・最新の矯正歯科技術（リングラケット矯正歯科治療、インプラント矯正歯科治療、外科的矯正歯科治療、口唇裂口蓋裂児、CTなどの画像データを用いた診断技術の向上</p> <p>・変形性顎関節症患者に対する治療技術の習得</p> <p>【3】 エッジワイズ法に関するタイポドント実習、教室主催のセミナーや論文抄読会への参加、および関連学会への参加を予定。加えて、現在、当教室で遂行している研究（変形性顎関節症の病態解明と治療法の開発、骨免疫学研究）にも参画してもらい、帰国後に母国で学位が取得できるような研究指導を行う。なお、本件担当者は、日本矯正歯科学会の指導医・認定医、日本顎関節学会の専門医、指導医であり、厚生労働省の臨床修練指導歯科医資格（外国人歯科医師指導資格）も有している。</p>	<p>対象国における歯科医師免許</p> <p>学歴：大学卒業</p> <p>経験年数：実務経験3年以上。</p> <p>実務経験、最終学歴後の実務経験等。</p> <p>年齢：不問</p> <p>日本語能力：N2</p> <p>英語・多言語：英語でのコミュニケーションがある程度可能であること。</p> <p>備考：</p>	<p>提案団体：徳島大学</p> <p>担当者名：田中 栄二</p> <p>E-mail: etanaka@tokushima-u.ac.jp Site: http://www.tokushima-u.ac.jp/dent/</p>
L15	自然環境保全を目指したバイオ複合材料の調査研究	2	上	上半期いずれかで相談可	3/15	<p>【1】 全世界で自然環境保全を目指したバイオ複合材料が必要とされていることを理解し、調査研究を通じて、専門知識を得る。</p> <p>さらに、徳島大学での先進技術を知ることで、日系社会の発展と移住先国の国造りに貢献できる新しい取り組みを検討する。</p> <p>【2】 1. 石油由来のプラスチックごみの環境に及ぼす影響について理解すること</p> <p>2. 石油由来のプラスチックに代わるバイオ材料についての知識を得ること</p> <p>3. 最新のバイオ材料の研究動向を知ること</p> <p>4. 自然環境保全を目指したバイオ複合材料の試作研究を行い、専門知識を得ること</p> <p>【3】 1. 調査：教員から個別のレクチャー、学術論文読解、最新の研究動向を文献ベースで調査し、問題点の抽出ならび解決策の一つであるバイオ材料の現状分析調査を行う。バイオ複合材が研究の一分野であるエコマテリアル国際会議に参加し、最新の研究動向を情報収集し、大学院進学が可能となるように研究指導を行う。</p> <p>2. 試験計画策定：問題点を解決するためのバイオ複合材料の試作について、試作方法、分析方法、評価法について、試験計画を策定する。</p> <p>3. 試作試験：バイオ複合材料の試作を行う。</p> <p>4. 分析：適切な分析評価方法を調査し、分析を行う。</p> <p>5. 解析・まとめ：分析結果から目的としたバイオ複合材料の試作の可否ならびにさらに性能向上に向けた問題点をまとめる。</p>	<p>理系大学在学中または卒業</p> <p>学歴：大学卒業</p> <p>経験年数：不問</p> <p>年齢：不問</p> <p>日本語能力：ポルトガル語で会話できる教員が在籍しているため、ポルトガル語を話せる場合は日本語能力不問。</p> <p>スペイン語を話せる場合は、日本語能力試験N3以上（ただし、研修期間中の徳島大学が開催する日本語教室を必ず受講すること）。</p> <p>英語・多言語：不問</p> <p>備考：応募締切は5月来日コースの締切日です。</p>	<p>提案団体：徳島大学</p> <p>担当者名：長谷崎 和洋</p> <p>E-mail: hasezaki@tokushima-u.ac.jp Site: http://www.tokushima-u.ac.jp/</p>

2023年度日系社会研修員受入事業

コース一覧表（上半期分）

No.	研修科目 和文	人数 受入 上下	来日 日	終了 日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名	
L16	エコツーリズム産業における起業家育成	2	上	5/7	2/2	<p>【1】研修を通じて得られるデータや知見に基づき、新規性のある自国でのエコツーリズムを提案できるレベルの力量を身につけることを研修目的とする。その上で学内の発表イベントやG1PECでのピッチイベントでの提案に対するフィードバックをベースに本国でのエコツーリズムに関する事業提案のブラッシュアップを行う。研修終了時には母国の日系社会で共感を得られ、事業開始に結び付けることができるレベルの提案に仕上げることを目標とする。</p> <p>【2】本事業提案の受入代表者である平見（香川大学創造工学部教授）はスペイン語、英語（書著多数）が堪能であることから、大学で教鞭をとる傍らこれら中南米のエコツーリズムスポットを数多く訪問し、本産業に関する調査・研究を行い、そのポテンシャルの高さを講演や論文を通じて紹介している。一方、平見は広島大学で6年程、産学官連携やアントレプレナー教育に携わっており、新たな産業構築のための教育に注力してきた。さらにJICA日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修プログラム事業で2017年から合計で16人のメキシコ人研修生を受け入れてきた実績がある（内4名は現在来日研修中）。日系社会研修事業では、この間に培われたアントレプレナー教育に関する講義やゼミを中心とした、教育プログラムをベースに新たな事業提案を行う能力を身につけてもらう。その上で日本におけるエコツーリズムに対する期待と実態を調査頂き、現地社会であるべきエコツーリズムを提案できる技術と力量を身につけていただく。帰国後は現地日系社会を巻き込み、事業の具体化を進めることで、形式にとられない実質的な日系ネットワークの構築に結び付けていただく。</p> <p>【3】1. 来年度同時期に予定されているJICA日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修プログラム事業とできる限り並行に行えるようカリキュラム日程を調整、研修員間のシナジー効果を出していく。 2. 創造工学部 造形・メディアデザインコースのエンジニアリングデザインスタジオ所属する学生と日系研修員との協働が期待される。研究と同時に日本の文化や若い世代の考え方を知っていただく良い機会とする。 3. 起業家を目指す学生クラブの各部員との関係も構築する。 4. エコツーリズムに関しては、香川大学内の講義の聴講及びゼミ形式での議論を進めていく。また、「新日本ガラパゴス研究会」メンバーとの討議を設け、エコツーリズムに関する理解を深める。 5. 主として中四国地方のエコツーリズムスポットを訪問し、日本のエコツーリズムの実態を知ってもらう。 6. Global First Penguin Club (G1PEC)のメンバーとのつながりを深め、コメントなどをもらいながら進めていき、研修終了時にはこのピッチイベントで発表を行うことを目標とする。</p>	<p>大学でツーリズム或いは地域イノベーションなどを学習した経験があること、或いは、観光産業での実務経験があること。 学歴： 大学卒業程度 経験年数：大学での学習の場合概ね2年以上、観光産業の場合の実務経験も概ね2年以上程度とする。 年齢： 不問 日本語能力：日本語検定N2レベルが望ましいが、英語でのコミュニケーション能力がある場合（TOEIC 700点程度）は、必要要件としない。 英語・多言語：英語での野コミュニケーション能力がある場合（TOEIC 700点程度）は、必要要件としない。 備考：</p>	<p>提案団体：香川大学 担当者名：平見 尚隆 E-mail：hirami.naotaka@kagawa-u.ac.jp Site: https://www.kagawa-u.ac.jp/</p>
L18	ウチナーネットワークを活用した持続可能なコミュニティ運営	2	上	7/23	1/23	<p>【1】研修員がウチナーネットワーク継承にかかる運営管理の手法などを習得する。 【2】① 研修員に、世界のウチナーネットワークの全体像が理解される。 ② 研修員に、若者を対象としたアイデンティティの強化にかかる企画力が習得される。 ③ 沖縄県内での地域活性化事例を参考にし、研修員が、自国で適応可能なアイデアを考案する。 ④ 研修員が、帰国後の具体的な活動計画を作成する。</p> <p>【3】1. 講義： ① 沖縄の歴史 ② 沖縄移民の歴史 ③ 世界のウチナーネットワークとは ④ ファシリテーションとは ⑤ 企画作りとは ⑥ SNS/動画配信の活用方法 ⑦ しまくとぅば(沖縄の言葉)等 2. 実習・OJT： ① 世界のウチナーネットワーク・世界のウチナーンチュ大会にかかる多言語相談対応・情報収集・発信、世界若者ウチナーンチュ大会など若者を対象としたアイデンティティ継承への企画、ソーシャルメディアを活用した広報、他 3. 見学；他団体の施設、活動（公的機関、民間）</p>	<p>県系社会で沖縄文化活動に携わっている。 学歴： 不問 経験年数： 不問 年齢： 想定年齢(20歳-40歳以下) 日本語能力： N 3（同等レベル、会話を重視） 英語・多言語： 英語でのコミュニケーション 備考： 本研修は、実習・OJT が中心となり相互の言語コミュニケーションが必要なため。 その他： Word、Excelの基本的な操作ができる。 イベントポスターやSNSで活用するバナー制作等デザインに興味がある。</p>	<p>提案団体：一般社団法人世界若者ウチナーンチュ連合会 担当者名：比嘉 千穂 E-mail：all@wyua.okinawa Site: https://wyua.okinawa/</p>
S1	ドローン・GIS技術による自然資源管理手法	4	上	上半期いずれかで相談可	<p>【1】農業、森林、環境管理に必要なGIS技術、GPS技術、マイクロ波リモートセンシング技術、ドローンの活用技術を習得する。 【2】1) GIS技術：GISソフトArcGISの基本的な操作、解析手法を習得する。 2) GPS技術：GPSによる農地計測、デジタルカメラとGPSを利用した農地管理。野生動物へ装着するGPSによる野生動物の行動解析手法を習得する。 3) リモートセンシング技術：ドローン、ErdasImagine、ENVI、SNAPなどリモートセンシングソフトを利用し、Sentinel-1、Landsat、Alosなどの人工衛星画像や空中写真などから、緑地抽出手法、収量予測手法などを習得する。 【3】環境空間情報学研究室、環境リモートセンシング研究室において開講している、基礎GIS、応用GIS、GIS・リモートセンシングによる空間情報の科学、リモートセンシング基礎演習など関連科目を履修するとともに、高度なGIS技術を習得する専門演習に参加し、技術の向上を図る。また、出身国（地域）の実際のGISデータ、衛星画像等を使い、ソフトの操作方法のみならず、帰国後にすぐに利用できるデータベースを構築する。研究成果は、学会等で発表する。また、東京・京都などの先進地を訪問し、今後の協働研修のネットワークづくりを行うとともに、GIS・リモートセンシングを活用した森林管理(REDD)や野生動物管理に関するJICA研修へも参加し、研究及び情報交流を図る。なお、使用する機器及びソフトの一部は帰国後にも利用できるよう、本学が提供する。新型コロナウイルス感染症の万全に伴い、来日がかなわない場合は全ての研修内容をオンラインでも対応が可能である。また、本学では英語による講義も行われるため、必要最低限の日本語能力で十分である。</p>	<p>表計算ソフトの操作など、基本的なコンピュータ操作が可能なこと。リモートセンシングソフトの操作については問わない。 学歴： 不問 経験年数： 不問 年齢： 不問 日本語能力： 不問 英語・多言語： 英語でのコミュニケーション可 備考： 応募締切は5月来日コースの締切日です。</p>	<p>提案団体：酪農学園大学 担当者名：教授 小川 健太/ 教授 森 夏節 E-mail：tech@rakuno.ac.jp Site: https://www.rakuno.ac.jp</p>	

2023年度日系社会研修員受入事業

コース一覧表（上半期分）

No.	研修科目 和文	人数 受入 上下	来 日 日	終 了 日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名	
S2	食品科学と栄養改善	2	上	6/18	7/19	<p>【1】栄養学的見地から日本の専門料理、家庭料理について学び、日本の食文化に対する造詣を深め、日常の食を介しての実施可能な料理講習会を運営できる技能を習得する。その料理講習会を通し、今日の日本の食における栄養について最新の知見も紹介出来、日系社会の活性化に貢献できる力を身につける。</p> <p>【2】日本の食における特色として、食材の扱い方、味付けを科学的な見地から学ぶ。南米では日本の調味料が6倍の価格で販売されていることから、身近な材料で調味料の代用、工夫をする。具体的な方法（乾燥麺の活用、乾物の作り方、乾燥野菜からのベジブロスの取り方）を学び、日本食の味の特色を学ぶ。合わせて日本の家庭料理から摂取できる、食物繊維、微量栄養素、抗酸化能の高い野菜に関する知識など、食べることを介し健康につながる最新の栄養の知識を、料理の実技と共に学び、帰国後ひとり、日本の家庭料理を再現出来、地域、日系社会へ向けた講習会を開催可能な技量を習得する。</p> <p>【3】研修員は本申請者の研究室に籍を置き、大学での研修である強みを生かして、調理学、食品学など研修員が興味を持った講義を受けて知識を増やし、各種の専門実習に参加し学んで行く。研修先は総合農業系大学として食品加工に関して多くの専門実習施設を持っている。日本の食品成分表、国民健康・栄養調査を用いて最新の栄養に関する知識を学ぶ。申請者の研究室の演習、ゼミナールに参加し、学生とともに各種の調理実習を行う。合わせて発酵調味料の作り方、日本食の専門料理、家庭料理、各種の治療食、レベル別の嚥下食について、実習と講義を並行して行う。専門研修として、京都、奈良、大阪において食の研修旅行を行う。</p>	なし 学歴：不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：N3 英語・多言語：不問 備考：日本語が少ししか話せなくても、日本の食について関心があれば、英語、スペイン語である程度まで対応可能です。	提案団体：酪農学園大学 担当者名：教授 石井 智美 E-mail: ishii@rakuno.ac.jp Site: https://www.rakuno.ac.jp
S4	「日系アイデンティティ涵養・日系史教育教材作成」演習（その1）	2	上	5/7	7/18	<p>【1】日本の歴史や文化、社会的背景、現代日本の実情などに関する理解を深め、質の高い日系文化継承教育教材を制作する。</p> <p>【2】・絵画・漫画・動画など、日本（特に金沢を含む北陸地方）だからこそ入手可能な視覚教材資料の探索と収集 ・教材制作に関わる各種スキル（制作、編集、管理・更新方法など）の修得 ・研修員の指導対象となる日系子弟を想定し、学齢児童教育や語学教育現場視察を通じた教育技能のスキルアップ ・日本文化、日本史、現代日本の社会実情などについて、体験学習を交えた深い理解 ・研究成果のプレゼンテーション、あるいは研究レポートの日・英・西又はポ語での記述 ・SNSの活用により、修得した技術や成果を研修員の母国の日系社会で広く効果的に還元</p> <p>【3】1. 講義：日本文化概論、日本史、日本文化史、日本社会概論、日本伝統芸能概論 2. 実習：日本文化・社会プログラム、日本伝統芸能演習、等 3. 見学：人間社会学域学校教育学類附属学校、放送大学、石川県を始めた北陸各地の文化施設訪問（美術館、博物館、等）、（必要に応じて）研修員の研修内容に関わる地域への研修旅行 4. 学会・セミナー・外部研修：（必要に応じて）研修員の研修内容に関わるものへの参加を検討 最終発表：学内で研修最終日に実施予定（閉講式も兼ねる）</p>	日系文化継承教育に携わるか、今後だざ触る予定がある者 学歴：大学卒業程度 経験年数：3 年齢：N/A 日本語能力：N/A 英語・多言語：N/A 備考：研究テーマについて事前に太田先生に相談すること。	提案団体：国立大学法人金沢大学 担当者名：太田 亨 E-mail: akirao@staff.kanazawa-u.ac.jp Site: http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/eg/sie/
S10	高齢化対策・生活習慣病予防	3	上	5/7	8/8	<p>【1】高齢化対策・生活習慣病予防に関する公衆衛生学的課題の科学的な把握方法を学び、社会的ニーズに基づく適切な対策が立案できるようになる。</p> <p>【2】①日本やアジア地域各国の高齢化対策の現状と課題を把握する ②基礎的疫学・統計手法（データの集め方、研究デザインの立案、基本統計量、差の検定、分散分析、多重線形回帰分析、マルチレベル分析、共分散構造分析SEM、など） ③公衆衛生学に基づく政策手法（PRECEDE-PROCEEDモデル、ヘルスプロモーション、ハイリスク・アプローチ、ポピュレーション・アプローチなど）</p> <p>【3】1. 講義：①基礎統計の解説、②医学部公衆衛生講義の聴講（日本語能力上可能なら） 2. 実習：①大学院レベルのゼミ、②抄読会、③月例勉強会への参加 3. 演習：①実地調査への参加、②データ入力、③データ解析（SPSS、SAS、Stata） 4. 視察：大学病院、東京都杉並区、静岡県伊豆の国市、長野県佐久など保健医療福祉施設 5. 発表：学内研究発表会、学会での発表（予定）</p>	保健医療福祉分野に関心のある研究者、実践家や、行政関係者 学歴：大学卒業程度 経験年数：1 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：英語でのコミュニケーション可 備考：	提案団体：順天堂大学 担当者名：湯浅 資之 E-mail: moyuasa@juntendo.ac.jp Site: https://med.juntendo.ac.jp/research/course/list/globalhealthresearch.html
S16	鍼灸学	2	上	6/18	9/15	<p>【1】鍼灸学についての基本的な知識・技術の再確認を行った後、日本で行われている鍼灸の様々な知識及び技術、更には最新の知識・技術の習得を通じて、鍼灸学に係わる考え方、学ぶ力を身につける。さらに、帰国してからも中米社会で研修成果を社会に還元する。</p> <p>【2】鍼灸学全般に係わる基礎的な知識を確立することができる。また、日本で行われている伝統的な鍼灸治療についての知識と技術の概要を理解できる。鍼灸治療の実地見学などの機会を通じ、高度な知識の習得や鍼灸臨床の技術力の向上を図ることができ、帰国後は自国での治療に活用することが可能となる。</p> <p>【3】関西医療大学付属鍼灸治療所において、伝統的鍼灸治療法、現代医学的鍼灸治療法、トリガーポイント療法、その他、皮内鍼法、経路テスト、特殊鍼法（耳鍼、頭皮鍼、髪際鍼、手背鍼）などを専任教員の指導下で学習する。（但し、患者さんへの治療は行わない実習である）</p>	・医療系（鍼灸を含む）の資格を有していることが望ましい。 ・鍼灸学をすでにある程度習得していることが望ましい。 学歴：医療系の大学を卒業していることが望ましい 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：日本語の高い理解力が必要である。（ある程度の日常会話が可能） 英語・多言語：教材：日本語 ※経穴のみポルトガル語、スペイン語あり 備考：	提案団体：学校法人 関西医療大学 担当者名：野口 英哉 E-mail: noguchi@kansai.ac.jp Site: http://kansai.ac.jp/
S19	観光果樹園経営及び果樹栽培技術研修	1	上	5/7	7/14	<p>【1】1. 果樹（イチゴ、スモモ、ブルーベリー、モモ、ブドウ等）の先端的栽培管理技術を習得する、2. 加工技術と商品化、マーケティングのノウハウを習得する、3. 観光果樹園の経営手法を習得する。</p> <p>【2】1. 果樹栽培管理技術の向上、2. 加工品の商品化、販売ルートの開拓、観光農園経営の成功。 【3】平田観光農園の業務に従事し、実習を積み重ねて技術を体得する（最も重要な開花期の受粉技術を習得する）。</p>	日本語で研修受講が可能な語学力を有していること。 学歴：不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：N3以上 英語・多言語：不問 備考：	提案団体：公益財団法人 ひろしま国際センター 担当者名：崎岡 明子 E-mail: hicc07@hiroshima-ic.or.jp Site: http://hiroshima-ic.or.jp/

2023年度日系社会研修員受入事業

コース一覧表（上半期分）

No.	研修科目 和文	人数 受入 上	上下	来日 日	終了 日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
S21	高温多湿環境下での自然環境保全を目指したバイオ複合材料の調査研究	2	上	上半期いずれかで相談可	9/15	<p>【1】全世界で自然環境保全を目指したバイオ複合材料が必要とされていることを理解し、調査研究を通じて、専門知識を得る。 さらに、徳島大学での先進技術を知ることで、日系社会の発展と移住先国の国造りに貢献できる新しい取り組みを検討する。</p> <p>【2】1. 石油由来のプラスチックごみの環境に及ぼす影響について理解すること 2. 石油由来のプラスチックに代わるバイオ材料についての知識を得ること 3. 最新のバイオ材料の研究動向を知ること 6. 自然環境保全を目指したバイオ複合材料の試作研究を行い、専門知識を得ること</p> <p>【3】1. 調査：教員から個別のレクチャー、学術論文読解、最新の研究動向を文献ベースで調査し、問題点の抽出ならび解決策の一つであるバイオ材料の現状分析調査を行う。自ら最新の研究動向を情報収集できることで、大学院進学が可能となるように研究指導を行う。 2. 試験計画策定：問題点を解決するためのバイオ複合材料の試作について、試作方法、分析方法、評価法について、試験計画を策定する。 3. 試作試験：バイオ複合材料の試作を行う。 4. 分析：適切な分析評価方法を調査し、分析を行う。 7. 解析・まとめ：分析結果から目的としたバイオ複合材料の試作の可否ならびにさらに性能向上に向けた問題点をまとめる。</p>	<p>理系大学在学中または卒業 学歴：大学卒業程度 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：ポルトガル語で会話できる教員が在籍しているため、ポルトガル語を話せる場合は日本語能力不問。 スペイン語を話せる場合は、日本語能力試験N4以上（ただし、研修期間中の徳島大学が開催する日本語教室を必ず受講すること）。 英語・多言語：不問 備考：応募締切は5月来日コースの締切日です。</p>	<p>提案団体：徳島大学 担当者名：長谷崎 和洋 E-mail: hasezaki@tokushima-u.ac.jp Site: http://www.tokushima-u.ac.jp/</p>
S24	言語と文化の継承と教育技術向上実践	2	上	5/7	6/6	<p>【1】①地域の歴史、文化、慣習、言語（方言）の継承とその教育方法の技能習得並びに日本の国語科指導教育に関する知識の習得と教育実践力の向上 ②地域コミュニティの活性化に向けて日本語・日本文化を学び直し、文化の保存と継承のための方法の習得と実践能力の向上</p> <p>【2】1. 文化の継承を担う教師としての実践技術 2. 言語の継承を担う教師としての実践技術 3. 文化と言語の記録のための理論と技能</p> <p>【3】1. 日系日本語担当教員としての専門知識と実践力の向上 2. 日本語と日本文化を学び直したい方、または日系日本語担当教員としての専門知識と実践力の向上 3. 1日の振り返り、日本人学生・留学生との討論、成果発表、意見交換</p>	<p>日系移住者子弟の教育を目的として設立された日系学校に勤務する教師。 日本語・日本文化を学び直したい方は、特に資格を問わない。 学歴：不問 経験年数：実務経験1年以上 年齢：不問 日本語能力：N3 英語・多言語：不問 備考：</p>	<p>提案団体：高知県立大学 担当者名：向井 真樹子 E-mail: mukai@cc.u-kochi.ac.jp Site: https://www.u-kochi.ac.jp/</p>
S25	早期胃癌の内視鏡診断と治療	3	上	上半期いずれかで相談可		<p>【1】世界トップレベルの日本の内視鏡診療の現状を把握し、最新機器を用いた早期胃癌の発見法と治療法を学ぶ 【2】・日本の内視鏡診療で用いる機器や知識を習熟できる ・次世代型トレーニングモデルや豚切除胃を用いた治療内視鏡のシミュレーション学習により、治療内視鏡の技術とコツを学ぶ ・帰国後の自国における具体的な活動計画を作成する ・インターネットを用いて日本と自国の遠隔医師教育講座を開催し、継続的な医療教育を行うことで自国における早期胃癌の診療レベル向上に寄与する</p> <p>【3】1. 講義：最新の内視鏡診断や内視鏡治療に関する論文の討論会への参加 2. 見学：九州大学病院および関連施設における内視鏡検査の見学と討論 3. 実習：粘膜モデルやブタから切除した臓器を用いた内視鏡治療の実習 4. 学会参加：日本消化器内視鏡学会や日本消化器病学会を中心とした学会、研究会への参加 5. 発表：病院内で研修内容を発表</p>	<p>医師（内視鏡経験が1年以上で年齢60歳以下） 経験年数：医学部卒業後2年以上かつ臨床経験2年以上 学歴：大卒程度 経験年数：2年 年齢：60歳以下 日本語能力：不問 英語・多言語：技術研修は英語で実施 備考：応募締切は5月来日コースの締切日です。</p>	<p>提案団体：国立大学法人 九州大学 担当者名：森山 智彦 E-mail: tomohiko.moriyama.153@m.kyushu-u.ac.jp Site: http://plaza.umin.ac.jp/imed/en/index.html</p>
S28	建築設計（意匠・構造及び設備	2	上	6/18	7/17	<p>【1】建築の設計・施工に関する、建物の機能性、安全性、適正な避難計画、耐震・環境対応策、これらに関する設備計画、また施工監理において基本的技術を習得する。</p> <p>【2】1. 日本における建築設計の基本的な技術全般を習得する。 2. 環境に対する建築的アプローチを日本のCASBEEや米国のLEEDから学習する。 3. その他研修員の希望する意匠計画、構造計画設備計画の研修を行い、必要な知識を取得する。</p> <p>【3】建築設計・施工監理に必要な技術を以下の研修内容で習得する。 1. 当社社員による各分野の講座にて、必要な知識を習得する。 2. 当社が抱える工事現場へ出向き、生の日本の工事技術・環境に触れる。 3. 当社が行った実績（施設）の見学、史跡や有名施設の視察を通し、沖縄の環境を土台とした建築の成り立ちを習得する。</p>	<p>大学の建築学科都市計画課の卒業生 学歴：大学卒業程度 経験年数：大学卒業3年以上 年齢：想定年齢30歳以下 日本語能力：日本語ができれば望ましいが、英語能力があれば対応可能 英語・多言語：英語でのコミュニケーション 備考：提案企業は、2015年から当該研修を実施。日系人をはじめ外国籍職員も多く、JICA研修員受入に加え、琉大留学生を対象としたプログラムを英語／西語で実施している。建築、土木、電気設備に係る設計・施工をメインとした建築設計事務所であり、米軍からの受注も多く、技術的適応性、外国人を対象とした研修実績も多く、日系研修を支える重要な地域リソース。</p>	<p>提案団体：株式会社具志堅建築設計事務所 担当者名：城間 俊 E-mail: suguru.shiroma@gushikena-e.net Site: https://gushikena-e.net/</p>